

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>地域密着型サービス法改正前から他市町村からの利用者も今日では、地域の自然と環境と生活に馴染んでおり、この安心した暮らしが継続できる支援に努めている。</p>	<p>○</p> <p>地域の一人として、住民として溶け込むことと、受け入れられる機会を作りたい。</p>
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>1日2回の申し送りと、ケア現場での遭遇面を振り返り、具体的なケアについて話し合い意見を取り入れている。</p>	<p>○</p> <p>つかずはなれず、出来ることは自分で、あきらめたものをゆったりとできる喜びに変えることを目標にしている。</p>
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	<p>理念は掲示している。利用者、家族、見学者、面会者にも説明している。連携、会議やイベントの参加他、利用者の選挙投票等、社会参加の関わりを実践している。</p>	
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。</p>	<p>地域の方々から認知症の相談も受けている。小学校区域にあり、自然が多く、犬の散歩途中に立ち寄ってくれたり雑草狩りを手伝ってくれる方もいる。児童の訪問もあり、利用者とのコミュニケーションで触れ合う機会もある。気軽に買物に出掛け、地下道を散歩しながらゴミ拾いをしたり、地域の理美容店を利用したり、日常的な付き合いに努力している。</p>	<p>○</p> <p>隣近所に住む方達、子供達が気軽に立ち寄り遊びに来てくれるようにしたい。グループホームについての書籍やVTR等を用意し、貸し出しをしたらどうかと検討したい。介護予防教室の開催を予定している。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
5	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の詳細結果から全員で話し合い改善に取り組んできた。サービスの質の向上に努めている。ユニットで共用部分と個性で具体的な実践が図られている。	○	利用者全員での遠出には、ボランティア確保が必要で達成されていない。利用者の身体的レベルを考慮しケアを施行しているが個々に満足ではないと思う。
6	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、ホームの活動計画を報告、助言と要望を得ながら過年度に評価されたことも含めて意見をもらい改善に努めている。		
7	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村担当課には介護保険関係情報回報を蜜にして頂き、ホームの利用者状況も報告する等、連携は取れている。近隣同士で急ぐ時は直接届けられる利点がある。解決も早くなる。		
8	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	利用者家族には研修資料から情報提供している。職員には資料を参考するように説明しているが、対応が必要なケースは管理者が対応する。現在該当者はいない。	○	職員が出来るよう必要ある毎に説明し、利用者の必要時に支援できる仕組みに持っていきたい。
9	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	内部研修を実施し、全職員に高齢者虐待防止法に関する理解を深める取り組みをしている。ケアの提供現場でもさりげない行為でも、虐待に当たらないか細かく例題を含めて浸透する様徹底している。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
10 ○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重度化や看取りについての対応、医療連携体制については丁寧に時間をかけ説明し同意を得ている。契約を改訂する際には、利用者家族に十分に説明し同意を得ている。退去の際は、本人と家族を交えて最良の退去先が情報提供を行う等の支援をしている。		
11 ○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の要望や意見は日々伺い実行されている。外出先や日頃の役割り分担も本人の希望を取り入れている。意見の表出できない利用者に対しては表情態度から察知し対応、ホームのケアと運営に活かしている。	○	運営推進会議に2回参加しているが、緊張してホームに居るような言動は聞かれず、家族へ話している内容が判った時点で解決の対応をしている。利用者の自治会を検討したい。
12 ○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の来訪時に暮らしぶりや健康状態、受診状況、金銭管理を報告している。訪問時は行事の写真を見て頂いている。来訪回数の少ない家族には電話、郵送を利用し報告している。金銭残金は月末日にコピーで送る。異動する職員は挨拶はできている。		
13 ○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の方には不平、不満、要望、意見等話しやすい雰囲気作りをしており、苦情窓口、管理者、職員に話して頂いている。それをケアサービス、運営に反映させ、振り返り実行されているか確認する取り組みをしている。	○	家族会は設置されておらず、検討したい。
14 ○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員からでた意見が反映される仕組みになっている。自由な発言を活かし、働く意欲とケアの向上につなげている。	○	自由に発言させることは本音が出るので運営には必要である。
15 ○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	職員の急な欠勤時には代替りの職員を確保する体制は整えられている。	○	管理者はシフト上の勤務はしているが非常勤職員が通常のシフトに入っていない為、利用者の状態の変化に応じた柔軟な体制はとれている。よるの緊急時には近場の職員が待機者となる駆けつけてくれる体制になっている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
16 ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	馴染みの信頼関係のとれた利用者はとまどうが、異動や離職がやむをえない場合は利用者にきちんと紹介し納得のいく引継ぎをしている。異動の場合は会いに連れて行ったり、利用者の移動も考慮している。		
5. 人材の育成と支援			
17 ○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々の経験年数に満たしている者は受講していただく事になっているが、該当者がいない。研修復命書を作成し内容をケアに活かせるよう伝達はしている。	○	全体会議等の発表はないが、資料は閲覧できるようにしている。
18 ○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流、連携に機会は確保されている。ホーム以外の職員の意見や経験をケアに活かしている。	○	インターネットを利用して他県のグループホーム活動を通じて支援ケアの向上を取り入れている。複数のグループホームを交互訪問し、交流も考えているが出来ていない。
19 ○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための良好な工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員の疲労やストレスに気を配り、要因がわかり次第ケアをサポート、フォローする体制に取り組んでいる。ストレスは個人差があるため、個々に緩和の方法をとってもらっている。	○	公休日を連休にしたり工夫はしている。
20 ○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	労働基準法に伴なって、職員の労働条件を整えている。年2回の健康診断で健康管理されている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
21	○初期に築く本人、家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人、家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談があったときは本人に会って心身状態や希望や思いを聞き、課題を把握し安心感を持てる関係に努めている。御家族とはこれまでの苦労や経緯についてゆっくり聞く時間を設け、緊張や不安を感じさせないようにしている。	○ 相談受付簿ファイルに記録している。
22	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時の利用希望者や家族のニーズに対し、その時点で何が必要かを話し合い、対応できることについては柔軟に実行している。	
23	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人が入院中の場合は家族に事業所を見学に来て頂いている。利用者が入居時、落ち着かない場合、家族の協力と1～2週間は経過観察期間とし、サービスの内容を変更することもある。	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
24	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者と喜怒哀楽を共にし、暮らしの中で共に支えあう関係作りに留意している。場面作りや声掛けにも工夫をし、励まされたり、労わりの声を頂くこともある。	○ 明るい健康的なホームの色を継続したい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	職員は利用者と日々一緒に過ごしている触れ合いの中から、気付いた点、家族からの思いを重ねて、家族と共に支えているという共感を得ている。		
26	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族が疎遠となっている利用者には、盆・正月などの帰省時に本人の家族への思いを受け、外出・外泊で家族と一緒に過ごされる事を勧めている。	○	職員と一緒に手紙のやりとりを頻回（月1回）に進めていきたい。
27	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域に暮らす馴染みの知人と交流されている。命日には親戚の人も立ち寄り談話されたり、お盆には家族に支えられ、墓参りをされたり、一人ひとりの生活習慣を尊重している。		
28	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	心身の状態、気分、感情に変化が見られる利用者には、個別に話を聞き見守りし、利用者同士の関係が崩れないよはたらきかけている。みんなが楽しく過ごす環境作りは出来ている。		
29	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	サービス終了後も必要に応じて、家族からの相談や、転居先との情報交換は行っている。	○	今後はホームの行事等に、他事業所の職員と共に招待をし交流の場をもちたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
30	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で、言葉ではっきり把握できている利用者もいる。意思疎通の困難な方は非コミュニケーションで意を汲み取り、家族や関係者と話し合っている。	
31	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時・入所後も生活歴・個性等に関して、プライバシーに配慮しながら、本人・家族関係からの情報で把握できている。日常で語られる内容から新しい情報を得られる事もある。	
32	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	生活リズムの中で出来ていること・出来ない事は、全職員把握できている（バイタルで体調変化を観察）。出来る力・出来たときは褒めてあげ、その人全体の把握に努めている。	
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
33	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者本位の個別・具体的な計画になっている。アセスメントから本人・家族・職員で話し合い、課題を煮詰め計画に反映し、評価につなげている。	
34	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画には利用者や家族の意思を反映させている。実施期間中も利用者の身体機能・状況の変化・家族の希望時は、随時見直し再アセスメントを作っている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
35	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	共用ファイルが有り、利用者のその日の身体状況や気づき等は、勤務前に確認できるようになっている。利用者の状況変化は、個別記録に具体的に記録され、見直しにいかされている。	○	具体的に記載すると、家族への開示が気になり、今後の課題です。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
36	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人・家族の生活の状況に応じて、通院や移・送迎等は同意を得ながら柔軟に体応した自主サービス支援を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
37	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	図書館は立ち寄らせて頂いている。利用者の安全と、個人が地域との生活を継続して頂けるよう、民生委員・地域の団体に接点を見出し、ボランティアの協力も呼びかけているが、実践は出来ていない。	○	今後も呼びかけの努力は継続していく。
38	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	介護保険に関わるサービスは受け入れていない。自主的に利用者の希望で、地域の理容院に訪問散髪に来て頂いている。		
39	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議に、地域包括支援センターの職員が参加するようになり、周辺情報や支援に関する情報交換をしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
40	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>		
41	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
42	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
43	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
44	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	○	<p>重度化した場合における対応に係る指針及び見取りに関する指針を作成している。</p>
45	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	○	<p>まだ該当者はいないが対応可能なケアについては家族、一部の利用者（理解可）には説明をおこなっている。</p>

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
46	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	ダメージを最小限とするために家族の協力が得られるよう働きかけを行っている。転居先でもこれまでの暮らしの継続が損なわれないように習慣や好み、ケアの内容、注意が必要な点を情報提供し、連携をとっている。	○	ケアスタッフ同士の情報交換は事前に綿密に行い、入居者に対してもスタッフに慣れていただく時間を事前に設ける。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
47	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	日々の関わりの中で、言葉ではっきり把握できている利用者もいる。意思疎通の困難な方は非コミュニケーションで意を汲み取り、家族や関係者と話し合っている。	○	誇りやプライバシーを損ねるような声掛け対応をしないよう気をつけている。利用者の記録や個人情報について他人に見られる等の取り扱いをしていない。
48	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	利用者に合わせて声掛け、希望、思考、関心あるものを取り入れ、自己決定し個別に副食、飲み物を頂いたりしている。	○	不満を耳にした時は本人と話し合う機会を、納得できるまでもつ。
49	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	買物や散歩など、一人一人の状態や思いに配慮しながら柔軟に対応している。個別性のある支援で、のんびり過ごしている。	○	お花の水やりをしたい人には早朝より玄関の鍵を開けている。掃除をしたい人には、清掃用具を渡す。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
50	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	自己決定がしにくい利用者には、一緒に選んでおしゃれができるようにしている。個々の生活習慣にあわせて口紅、マニキュア等も喜ぶ人には行っている。	○	着替えの時は何を着たいか本人に聞く。希望があれば床屋の方に来て頂いたり、理髪店へ出掛ける。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
51	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立には利用者の希望、好み、嫌いなものを配慮している。サポートしながら昼食は同テーブルで職員も同じ食事を食べている。対面で食事をすると、盗食する人がおり、席を別れている。	○	入居者にはおしぼりたたみ、おやつ作り、食後の後片付け等を手伝ってくれる。敷地菜園から採った収穫物をメニューに取り入れている。
52	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	利用者の嗜好品を把握し個々の様子や時間に合わせ、飲み食いをして頂いている。家族の持参した物は居室で食べたり、他入居者に周知して頂き、分けて摂ることもある。	○	現在、タバコの喫煙、お酒をたしなむ方はいないがオロナミン、リポビタン、青汁等は飲用されている方もいる。
53	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェック表で、時間間隔を把握し誘導、トイレでの排泄を促している。夜間は、ポータブルトイレを使用者もいる。	○	日中はリハビリパンツを除去し、布パンツに尿取りパッドで対応しているが、尿取りパッドは排尿機能面から完全に除去できないでいる。
54	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	本人の希望する入浴時間も、順番も決まっている。利用者の身体機能状況に合わせて、お湯に浸かる時間も配慮している。	○	必要に応じ、シャワー浴もある。仲の良い入居者は二人で入浴を楽しむこともある。職員と一緒に入るには至っていない。
55	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	利用者の体調や希望に沿って、自由に休憩できるようにしている。夜間は本人希望で、足浴、鼻洗浄等軽快に寝れる様行っている。不眠に対しては、家族の了解と医師との相談で処方して頂いている。	○	入眠剤を服用してからも寝付けない時は、入眠に入るまで枕元で見守りはするが、添い寝はしていない。照明は本人の希望で明暗に応じている。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
56	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の経験や知意を発揮して頂いている。鉢植えや草取りをされたり、花を生けたりしている。買物へ出掛ける人、近隣の散歩好きな人、洗濯物をたたむ人、テレビは開放されている。個々に合った時間を楽しんでいる。	○	天候に合わせて、余暇時間を調整している場合もある。遠出のショッピングは雨の日でも出来る。


項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
57	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の方から直接おこづかいを貰っている方と、ホームで預かり金としている方もいる。買った物に自分で支払い、おつりは職員と数えている。自分で数えることが出来る人もいる。	○	金銭感覚が薄い利用者には、家族と話し合い、一回の使用する金額を決め、本人の納得できる買物にしている。預かり金に対しては、金銭管理依頼書に同意して頂いている。
58	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	地域でお祭り等がある時は、車で行っている。切り花や梅干など、なくなれば買いに行く事を楽しみにしている方もおり、その場合は車で連れて行く。	○	村内に海があり、眺めたいも階段数が多く上れない。
59	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	利用者にいくつか行ってみたい場所を聞き、計画的に遠出の機会を作っている。	○	家族の方に声をかけると、家族ぐるみで遠出をする例もある。A、B両棟合同で参加し外出もする。外出先でソフトクリームを摂るのを楽しみにしている。地元の温泉にも行ってみたい。
60	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族から電話を受け取ったり、かける時は携帯電話を居室に持ち込み充分に話せる。手紙は代筆、中は自筆の絵や文字書を入れて送ることもある。	○	利用者の希望と家族への連絡を利用して郵送する機会は多くしたい。
61	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	訪問時間はいつでもよい。夜間では家族は、都合のよい時間に訪問できるようにしている。	○	家族、友人、親戚の来居時は居室と居間の往来がみられ、いずれかにお茶を運び、居室のときは必要以上に立ち入らないようにしている。宿泊の準備をした
(4)安心と安全を支える支援				
62	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行わないという姿勢で日々のケアに取り組んでいる。一日のケアを振り返り、何気ない自覚していない拘束がないか注意している。	○	やむを得ず、身体拘束を行わなければならない場面になった時は理由、経過観察、方法を記録し家族と相談、同意書を得る体制になっている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ホームの中では鏡で追ったり声をかけたりし、外へ出られてしまった場合は一緒に腕を組み、歌を歌いながら中に入る。入室される利用者同士のトラブルを防ぐ為、家族の同意を得たり、自ら施錠する利用者もいる。	○	ホームから東側に下がると海につながる為、風除室の片側の施錠をすることもある。洗濯を干す時など利用者が外を歩き始めたときは散歩をすることになっている。
64	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員は居間で業務作業を行いながら壁鏡を利用し、全利用者の動きを把握するよう努めている。夜間は定時の巡回と利用者に必要な見守りを行っている。夜勤の休憩は居間ソファで休み、全利用者の排泄移動の介助見守りで安全に配慮している。	○	外出傾向にある利用者が居間を離れたとき、ホーム内のどこにいるか常に気に掛け、見えない時は名前を呼んでみる。入浴では湯に浸かる間、支えて浮かさない、沈まない様配慮している。
65	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	危険要因にあわせ施錠もしている。利用者の目に触れない所に置いたり、利用者の使うもので注意が必要なものは分けて保管、管理している。	○	縫い物はするが、針の管理が出来ない場合、一緒に確認、終了後預かっておく。
66	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	利用者の状態を把握、予測される危険、事故に関しては頻回に職員間で話し合い、随時対応を変え工夫をしている。ヒヤリハットの内容事故でも今後の予防対策に家族への説明と報告を行い、協力をして頂くこともある。ヒヤリハットは職員の側においてあるが、事故報告書記録ファイルは事務室に保管してある。	○	徘徊が多く、確認のないままホーム外へ出て行く恐れのある利用者の行動には特に気をつける。外部、新聞の事故記事は、職員の目に付くところに貼って学習につなげている。玄関に鈴をつけているが天候によって開けておくこともある。
67	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	応急手当、救命救急の受講者は3分の1おり、ニュースの事故情報にあわせ、話し合いと手技の模擬を行っている。繰り返すことによって自信はつくと思う。	○	全員が研修を受けられるようにして頂きたい。緊急時の視点が変わってくると思う。
68	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	地域の警察、消防、運営推進会議で協力を呼び掛けている。災害時の避難場所を確認、ホーム内2ヵ所に表示している。定期的に2ユニット共同の避難訓練をホームのみで行っている。	○	夜勤帯を利用し、予告なしで避難訓練を実施し利用者の反応と実際の場面では個々の特性に合わせた対応が必要だと判り、職員の自覚を促した。今後は、近隣住民の協力を御願ひして実施につなげていきたいと思ひます。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで いきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
69	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	個々に予測されるリスクは把握しているが、状況変化で起こりえる可能性が現実となる前に職員、本人、家族と率直に話し合い、予防につなげている。	○	破壊されたハード的な物はすぐに修復している。異食行為に対しては、環境整備（発泡スチロール等の飾り物は手の届かないところにとりつける、ハンドソープの使用は見守り、厨房カウンター越しの洗剤、調味料は場所を変える等）で体応している。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
70	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	普段の状況は職員で把握し、定時のバイタルチェックとは別に食欲、顔色の観察をし変化が見られた場合は記録し医療機関に連絡指示をうけ受診につなげている。	○	変調と見極めた時は、職員間で共有し対応にあたっている。
71	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方文献は個人ケースに綴り、医師、職員が確認でき家族にも説明している。本人の服薬状態により、粉末はオブラート、スプーン、手のひら、むせ込み者にはトロミ水分で服用の確認をしている。	○	与薬の変更のあった時は、職員の目につく壁に文献を貼り内容を把握できるようにしている。服薬ファイルをコピーしてそばにおいていつでも見られるようにしている。
72	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排便チェックをし、食材や運動、飲水を取り入れて自然排便を促しているが、頑固な便秘には医師と相談、緩下剤を処方していただき服用するときもある。	○	排便が3～4日以上なければ本人の希望、腹部不快の訴えにより、下剤は調整してよいと指示あり施行している。
73	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	起床、就寝の口腔ケア以外、毎食後のうがいと個別の介助で義歯の洗浄、夜間はポリドントに預かり保管している。	○	義歯の修理だけでなく、虫歯の手入れ、治療を家族と話し合い、検討していきたい。肺炎球菌による誤嚥性肺炎予防に対応している。
74	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立メニュー作成時、希望があれば嗜好品を食材、おやつに摂りいれている。食事チェック表には必要時は摂取量も記載する。月ごとの体重の増減を把握している。多行動の利用者には大めの水分と間食を摂って頂いている。	○	メニュー作成は各ユニット交代制になっている。急激な減量は医師と対応している。間食は家族の協力も得ている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
75	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	ワクチン接種を行っている。職員の体調不良時はシフトを変更することもある。手指の消毒ではハンドソープ、ペーパータオルを常備。汚染物、汚染衣類、処置には使い捨てグローブ、漂白剤浸透後洗濯する。又、ゴミはナイロン袋に汚染と書いて出す。	○	流行する時期の情報を早く入手し、感染症に適した薬液を使用するようにしている。行政の指薬をとり入れている。流行時は情報交換を行い、家族、外来者、来居をおさえ、両ユニットの往来も制限している。
76	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食器は週2回、ミルトン消毒。食中毒流行時は毎日施行。食材、残り物は鮮度を見極めて保存している。4日分の食材は業者配達、他は購入している。調理用具の除菌、消毒は用途に応じて使い分けている。まな板は泡ハイター、ふきんは漂白剤で毎日消毒している。	○	自己申告で、自制内のこともあるが発熱、嘔吐、頭痛等の症状がある職員はマスク使用又は、調理を代わるようにしている。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
77	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	スロープを使用し独歩可能。建物の色が黄色で目立っている。入り口階段、玄関先には鉢植え、南側ベランダには役場から提供された花プランターがきれいに咲いている。玄関のベンチを外に出して、全入居者が日光浴を楽しまれている。	○	敷地内の通路全般が砂利道でデコボコしており、水溜りがみられ、家族の方から問われることがある。
78	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	下駄箱の上には利用者が季節の花、鉢植えを置き楽しまれている。日差しのよい居間にしげんと利用者が集まり、テーブル、ソファでくつろがれている。共同作業をしたり、作品、季節の写真を貼っており、中から探して楽しんでおられる。	○	行事に合わせた飾りつけやお祝いの食事の味付け等を主婦の先輩から学ぶことは多く参考にしている。
79	○共用空間における居場所づくり 共用空間の中には、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った者同士で居室に集まったり、居間でくつろがれたり持っているオヤツ等を分けてあげたり、同じテレビドラマを見たりと、それぞれ自由に過ごされています。または、一人で玄関で外の景色を眺めるのが好きな方、居室から外の景色を眺める方、皆さん自由に楽しんでいる。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
80	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で生活されていた時に使用していた家具・調度品を持ち込みテレビ・冷蔵庫も備え、一人暮らしを楽しんでいる方もいる。また、使い慣れた日用品の髭剃りを肌身離さず、お守りとしている方もいる。枕もとに昔飼っていた愛犬の写真を置いている方などもある。	○	家族の写真がない方には、提供して頂くよう呼びかけているが、提供のない場合はホームの小家族の写真を貼るようにしている。
81	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	夜はさわやかに眠って頂く様ポータブルトイレ使用者の居室は消臭と日中に窓を開放するなど換気を徹底している。また、室内に温度計を設置し入居者の体感に合わせて四季を通じて冷暖房を調節しており、必要に応じて居間や各居室に加湿器の設置をしている。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
82	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	車椅子や歩行器使用者の状態に合わせて移動線には障害物を置かないようにし手すりの使い勝手や、夜間のみ車椅子使用等、安全の確保と自立への配慮はしている。	○	自操できる利用者にはぶつかりのないように他の入居者の方たちが見守りするなど、協力してくれる。
83	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	場所が判るように名前を表示しても理解出来ない利用者には言葉かけを実践し、何度か繰り返しで出せるものと出来ないを見極め、状況に合わせて職員で話し合い混乱や失敗を防ぐ工夫はしているが難しいのが現状です。	○	誘導し全介助することは簡単だが、長いケアの中で時間をかけて、出きる力を本人に自覚してもらい自身につなげることが自立への一歩だと思うので、これからも根気よく継続していきたい。
84	○建物の活用 建物を利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	施設内の居間はテーブルと床を利用してレクリエーションの場となっており、廊下は日常生活リハビリの機能訓練にりようされている。外では外気浴と畑を利用して菜園作りなどを楽しんだり、両ユニットの交流の場となっている。		

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

V. サービスの成果に関する項目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
項 目		
85	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
86	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
87	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
88	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
89	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
90	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
93	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
94	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
95	職員は、生き活きと働けている	○ ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
96	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
97	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

入居者と職員がとにかく明るい！この雰囲気絶やさない職場、グループホーム作りをしていきます。
笑って、唄って、踊って個性を尊重しています。